

1 読んで、疑問に思った点を書こう。(内容面でも表現面でも可)

意味段落	形式段落	疑問点

2 初読感想文を書こう。

3 グループで、この文章を読んで考えたい疑問点を一つ決めよう。

意味段落	形式段落	疑問点

4 学習後(深い読解後)、疑問点に対する答えを出そう。

意味段落	形式段落	疑問点に対する答え(根拠も書くこと)

5 ★スピーチテーマ『羅生門』の主題について考えを述べよう。(表現面で気づいたことなど、根拠を示しながら意見を述べること)

①私は『羅生門』の主題について

--

と考えました。

②その根拠は、

--

③この主題を通して私が考えたのは、

--

という事です。

※原典：『

』

問1 冒頭の「ある日の暮れ方のことである」という文は、この小説にどのような効果をもたらすか。

問2 原典の冒頭部との違いは何か。

問3 「雨やみを待っていた。」とあるが、原典では雨は降っていない。雨を降らすことでどのような効果をあげているか。

問4 「蟋蟀が一匹とまっている」という描写は、この場面にどのような効果をもたらすか。

問5 「仏像や仏具を打ち砕いて、…売っていたということである」という記述は、人々のどのような様子を示しているか。

問6 「大きなきび」から、下人がどんな人物であることがわかるか。

『羅生門』芥川龍之介(第一段落①) 一年 科 番 名前

※原典：『今昔物語集 』

問1 冒頭の「ある日の暮れ方のことである」という文は、この小説にどのような効果をもたらすか。

特定の日を設定しない書き出しによって、物語的な内容であることを暗示している。

問2 原典の冒頭部との違いは何か。

「今は昔撰津の国のほどりより、盗みせむがために京に上りける男の、日のいまだ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに…」

芥川は「下人」を初めから「盗人」と定めておらず、「飢え死に」と「盗み」との間揺れる人物として描いている。

(※この問題は投げかけだけしておき、答えは最後に振り返って確認する。)

問3 「雨やみを待っていた。」とあるが、原典では雨は降っていない。雨を降らすことでどのような効果をあげているか。

暗くて陰気な雰囲気を醸し出す効果を上げている。

問4 「蟋蟀が一匹とまっている」という描写は、この場面にどのような効果をもたらすか。

人氣がなく物寂しい、荒廃した羅生門の様子を強調する効果をもたらしている。

問5 「仏像や仏具を打ち砕いて、…売っていたということである」という記述は、人々のどのような様子を示しているか。

仏教の信仰の厚かった当時において、仏像や仏具まで薪にして売ったということから、人々の貧しく困っている様子、さらには心の荒廃ぶりを示している。

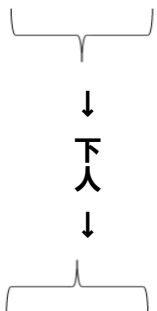
問6 「大きなきび」から、下人がどんな人物であることがわかるか。

まだ生命力のある若い青年であることがわかり、また子供と大人の過渡期にいる人物であることがわかる。

○形⑤「作者はさつき『下人が雨やみを待っていた』と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようという当てはない。…(略)」

作者の登場…

○作者の分析



「下人の Sentimentalisme」影響

問「なぜフランス語を用いたのか」

答

○形⑥「雨は羅生門をつつんで、遠くから、さあつという音を集めてくる。夕間は次第に空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葺の先に、重たく薄暗い雲を支えている。」

【小説のセオリー】

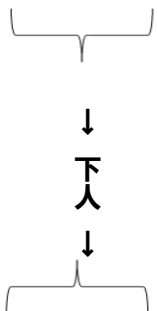
○形⑤「作者はさっき『下人が雨やみを待っていた』と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようもない。…(略)」

作者の登場：

下人の状況や心理を説明

○作者の分析

- ・ 京都の衰微
- ・ 暇を出された
- ・ 夕方の雨



- 「途方に暮れている」(どうしたらいいのかわからず困り果てる)
- × 「雨やみを待っている」

「下人の Sentimentalisme」影響」

問「なぜフランス語を用いたのか」

答 この小説を現代的にする工夫

下人の心情が現代の私たちの心情に通じるものだと感じさせるため

(※「感傷」＝物事に対して悲しがあったり、寂しかったりすること。心が感じやすいこと。)

○形⑥「雨は羅生門をつつんで、遠くから、さあつという音を集めてくる。①夕間は次第に空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葺の先に、②重たく薄暗い雲を支えている。」

【小説のセオリー】

風景描写

＝
心情描写

《下人の心情描写》

- ① 段々と追いつめられていく下人の心の暗さ
- ② 行き場を失った、重苦しい、切迫した心情

○形⑦ 下人の心理

どうにもならないこと

||

明日の暮らして



どうにかするためには(手段)を選んでいる(いとま)はない。

・「選んでいれば」… 飢え死に ↓ **否定**

・「選ばないとすれば」… **盗人になるより他に仕方がない** ↓ **肯定**

★下人は何度も同じ道を低回したあげくに、やっとこの**局所**に達着した。

(結論を出した)

しかし、いつまでたっても「選ば」であった。(仮定であって、決定ではない)

○形⑧ 「下人」…大きなくさめ || 立つきっかけ

大儀そつに立ち上がった。|| 肉体的・精神的疲労

「蟋蟀」「…もうどこか入行ってしまった。|| 時間の経過

いっそつ物の寂しさ

下人の孤独 の強調

今後何が起ころうな予兆を表している。

○形⑦ 下人の心理

||



どうにかするためには)

(を選んでいる)

(はない。

・「選んでいれば」…

・「選ばないとすれば」…

○形⑧ 「下人」…大きなくさめ ||

大儀そつに立ち上がった。 ||

「懸解」もつとごが入行ってしまった。 ||

直喻 (警戒心が強い・敏捷)

○形⑩「それから、何分かの後である。一人の男が、猫のように身を縮めて、息を殺しながら…」

緊張感

「一人の男」という表現にはどのような効果があるか。

改めて下人を客観的にとらえ、新たな局面に転換したことを読者に伝える効果。

「楼上からさす光が、男の頬をぬらしている。短いひげの中に、赤くうみを持ったにきびのある頬」

隠喩

下人と同一人物

○楼上的様子

誰か火をとぼして、しかもその火をそよよと、動かしているらしい。

どうせただの者ではない。



(なぜか?) この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているから。

(異常な時)

(異常な場所)

○下人の心理

・形⑬「ある強い感情が、ほとんどのどどどどへの男の嗅覚を奪ってしまった」

六分の恐怖と四分の好奇心

・猿のような老婆

・死骸の髪の毛を抜く

恐怖 が少しずつ消えていった…(なぜか?)

それと同時に

老婆が髪の毛を一本ずつ抜いているのが分かって
少しずつ冷静になり、事態を理解することができる
ようになったから。

この老婆に対する激しい憎悪

が少しずつ動いてきた。

あらゆる悪に対する反感

…一分ごとに強さを増してきた。

悪を憎む心

…老婆の床に挿した松の木切れのように、勢いよく燃え上がり出していった。

○「老婆が死人の髪の毛を抜くこと」||下人にとっては

許すべからざる悪

(非合理的・直観的な正義感によるもの)

下人の心理③

形20 「何をしていた。言え。言わぬと、これだぞよ。」

||

形21 初めて明白に、この老婆の生死が、

全然、自分の意志に支配されていることを意識した。

||

今までけわしく燃えていた

を冷ましてしまった。

安らかな

「おれは横非遣使の庁の役人などではない。…旅の者だ。(略)

問 なぜ嘘をついたのか。

老婆」の髪を抜いてな、…かつらにしようと思ったのじゃ。」

老婆の答えが存外、平凡なのに

した。

問 下人はなぜ失望したのか。

同時に、前の

が、

と一緒に心の中に入ってきた。

下人の心理③

形20 「何をしていた。言え。言わぬと、これだぞよ。」

||

燃え上がる 正義感

形21 初めて明白に、この老婆の生死が、

全然、自分の意志に支配されていることを意識した。 ||

支配の意識 ・ 優越感

今までけわしく燃えていた

憎悪の心

を冷ましてしまった。

安らかな

得意と満足

「おれは検非違使の庁の役人などではない。…旅の者だ。(略)

問 下人はなぜ嘘をついたのか。

老婆を安心させ、何をしていったのかしゃべらせようと思ったから。

老婆「の髪を抜いてな、…かつらにしようと思ったのじゃ。」

老婆の答えが存外、平凡なのに

失望

した。

問 下人はなぜ失望したのか。

非日常的で下人の好奇心を満足させるような答えを期待したのに、あまりに現実的なものだったため。

同時に、前の

憎悪

が、

冷やかな侮蔑

と一緒に心の中に入った。

老婆の描写について

- ・猿のような
- ・鶏の脚のような
- ・肉食鳥のような
- ・鴉のような
- ・墓のような



(喩)

老婆の論理

① 死人の髪の毛を抜くことは

と知っている。



じゃが(しかし)_____いる死人どもは、それくらいのことばされてもいい人間ばかりだ。

※

② しかし、この女のしたことば

とは思わない。



なぜなら、そうしなければ

をするから。

※



だから、自分のしたことばも許される。(悪いことではない)

老婆の描写について

- ・猿のような
- ・鶏の脚のような
- ・肉食鳥のような
- ・鴉のような
- ・墓のような

(直喩)

野生的・動物的・本能的

人間的・理的



老婆の論理

①死人の髪の毛を抜くことは

悪いこと

と知っている。

じゃが(しかし)「死んでいる死人どもは、それくらいのことばされてもいい人間ばかりだ。

※ 悪いことをした人間には、悪いことをしてもよい。

(蛇を干し魚だと言って、売っていたこと)

②しかし、この女のしたことを

悪い

とは思わない。

なぜなら、そうしなければ

飢え死に

をするから。

※ 生きるために仕方なくする悪は許される。

※ 生存を最優先する論理

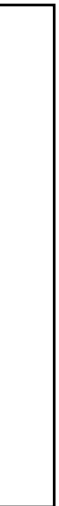
だから、自分のしたことも許される。(悪いことではない)

下人の心理

形⑲ 下人の心にはある**勇氣**が生まれてきた。

さつき門の下では欠けていた**勇氣**

老婆を捕えた時の**勇氣**とは反対な方向に動こうとする**勇氣**



勇氣

○「きつと、そうか。「…老婆の話が終わると、下人はあざけるような言で念を押した。

なぜか。

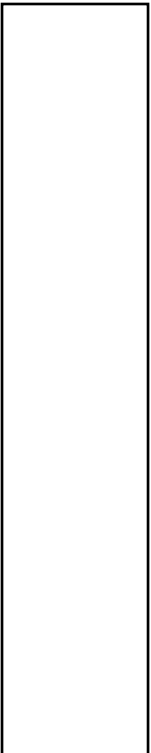
形⑳ 「では、おれが引割をしようと恨むまいな。おれもそうしなければ、飢え死にをする体なのだ。」

形㉑ 下人は、すばやく、老婆の着物を剥ぎ取った。

夜の底へ駆け降りた。

形㉒ 下人の行方は、誰も知らない。

◎主題



下人の心理

形⑳ 下人の心にはある**勇氣**が生まれてきた。

さつき門の下では欠けていた**勇氣**

老婆を捕えた時の**勇氣**とは反対な方向に動こうとする**勇氣**

(悪を憎む勇氣)

盗人になる勇氣

勇氣

(「盗人になるよりほかに仕方がない」ということを積極的に肯定するだけの勇氣)

○「きつと、そうか。」「…老婆の話が終わると、下人はあざけるような声で念を押した。

なぜか。

老婆の主張は、そっくりそのまま老婆自身の首を絞めるような理屈になっていることに気づき、ばかにする気持ち。

形㉑ 「では、おれが引割をしようと思ひまいな。おれもそうしなければ、飢え死にをする体なのだ。」

形㉒ 下人は、すばやく、老婆の着物を剥ぎ取った。

夜の底へ駆け降りた。

黒洞々たる夜

形㉓ 下人の行方は、誰も知らない。

◎主題

人間の生のエゴイズム

人間の善悪の相対性

近代的倫理の葛藤(理性と本能)